

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 2 (2020) 年 11 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人  
〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-c.jp/> ※4月1日より変更  
受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月 1 日

## 診療情報管理士のキャリアアップについて

須貝 和則

国立国際医療研究センター 医事管理課 課長  
医師事務作業補助者コース小員会 委員長

私が勤務する国立国際医療研究センターでは、診療情報管理士を「専門技術職」として位置づけ、事務一般職とは別の常勤職員として配置しています。具体的には、医事管理部門を中心に医療情報部門や企画経営部門まで業務範囲を広げ、いわゆる「医学的知識を持った事務」として活躍しています。最近、診療情報管理士のキャリアプランについて、今後どの様に描いていくのか、病院幹部より質問を受け、診療情報管理士のキャリアとは何か、改めて考えることになりました。

医療における診療情報管理士の役割といったことについては、学会活動や生涯教育を通して、これまで様々な切り口で議論が行われていますが、具体的には日本診療情報管理学会から示されている「診療情報管理士業務指針」にまとめられています。しかし、実際の職場環境でのキャリアプランを描くということになると、明確なシステムも教育も当院にはありません。診療情報管理士の将来をどの様に描くのか、人事的なことも含め曖昧であることに改めて気付かされたのです。

診療情報管理士にとってのキャリアプランは「診療情報管理士のスペシャリストを目指し、自らそのギャップを埋めるための教育や経験を積み重ねるための行動計画」と定義づけられるのでしょうか。事務的でありながらも医学的知識と情報処理やデータ分析の技術を身につけ、医療現場で活躍できる資質を持ち、引いては病院の経営にも関与できるポジションに就く。その様に考えると一つの部署に留まることなく、医療の幅広い知識や経験を積むことがキャリア形成に必須不可欠となります。その様な活動が実現されているのか、最近では、病院企画や医療安全といったマネジメント部門で活躍する診療情報管理士も増えてきました。

一方で、診療情報管理士の配属場所の多くは、医事などの事務部門に勤務することが診療情報管理士を対象としたアンケート調査で報告されています。一部の意見に、診療情報管理士として資格を有しても事務一般や医事業務に従事するだけで、専門性を活かせていないと思う方もいるようですが、私は診療情報管理士のキャリアにおいて、事務的能力や医事の知識は極めて重要であると考えています。特に保険診療に対する知識や診療報酬請求の経験は医療機関に勤務する上で基本となる部分ですので、診療情報管理士の資質を高めることと認識しています。

さて、日本診療情報管理学会において、令和 3 年度より「国際診療情報管理士」の生涯教育が始まります。この教育の目的には、医療現場から保健体制に至る幅広い分野において国際基準に適応した知識・技量を身につけることを目的に挙げています。最先端の ICD-11 や ICF、ICHI といった統計分類、医療現場で必要となる ICT の知識、事務職の基本となる組織運営のための品質管理やリスク管理といった領域まで網羅されています。まさに、診療情報管理士のキャリアアップに欠くことのできない知識を得られることと思います。

